

青森クリーン(株)

# 産廃処分場拡張を計画

## 容量3倍、17年供用目指す

むつ市奥内で産業廃棄物最終処分場を運営する青森クリーン(同市)が、同処分場の隣接地に、新たな産廃最終処分場を計画していることが10日、分かった。新設される処分場は埋め立て容量約81万立方メートルを見込んでい

る。処分施設の拡張により、同容量は現在の約43万立方メートルの3倍に当たる、約124万立方メートルとなる予定。2017年4月の供用開始を目指している。

青森市で開かれた青森県環境影響評価審査会では、造成地の土砂流出を防ぐための緑化方法や、動植物の生息調査の手法など3項目の記載を求めた。事業者は県や審査会の意見に基づき、方法書を修正する。より具体的な内容を示した案から処分場の廃止まで

環境影響評価の準備書と評価書を作成する必要があり、事業申請には今後1年以上かかる見通しだ。(佐々木琢磨)

五戸町浅水地区の産業廃棄物管理型最終処分場の建設計画をめぐり、青森県環境影響評価審査会(部会長・杉浦俊弘北里大獣医学部教授)は10日、青森市で会合を開いた。建設を計画する事業者が昨年11月、県に提出した環境影響評価の方法書について同部

会が「埋め立て終了から処分場の廃止まで施設の維持管理の具体的な方法を示す」ことなど、新たに5項目の記述を求めた。

同日、県からの諮問を踏まえ、環境影響評価の準備書や評価書を作成する見通し。県はこれをめぐっては、地元

の事業者のウエブウェイストジャパン)をいたこの内容や住民の意見に配慮し、事業を許可するかどうか最終判断

する。同処分場の建設をめぐっては、地元住民団体が同社や五戸町に計画中止を求めて

同社(株)は審査会の指摘を踏まえ、環境影響評価の準備書や評価書を作成する見通し。県はこれをめぐっては、地元住民団体が同社や五戸町に計画中止を求めて